

秋月悌次郎 (1824年7月27日~1900年1月5日):南摩 綱紀(なんま つなのり:1823年12月26日~1909年4月13日)とともに、日新館一の秀才と称される。また薩摩・長州など諸国を渡る。戊辰戦争後は責任を問われ終身禁固刑となるが、明治5年(1872年)に特赦によって赦免される。同年、新政府に左院省議として出仕し、第五高等学校(熊本大学の前身校)など各地の学校の教師となる、五高では小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)と同僚であった。

奥平 謙輔(1841年2月12日 - 1876年12月3日): 藩校明倫館で学ぶ。文久3年(1863年)の下関戦争 では先鋒隊士として参加。慶応2年(1866年)には干 城隊に配属。その後の戊辰戦争ではその干城隊の参 謀として報国隊、奇兵隊とともに長岡、新発田、新潟 を転戦した。その際、友人の会津藩士・秋月悌次郎に あてた手紙は名文として知られる。萩野の乱(1876年: M9)の首謀者の1人。